

パネル展示を見て

1月15日 火事の写真を見た時「これも地震のせいかな」と
(木) 心の中で思っていました。じさいの写真を見ても
こんなに過酷なのに協力しあいなから生きていてすごいと思った。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

色々な話を聞いたけど、一番印象に残っているのは
ビルがたおれていた写真です。とても大きいビルだから
しっかりできているはずなのに地震によ、てたおれている
のを見て個人的には一番地震のこわさが伝わって
いたからです。方にも色々な話をしたけど家で調べて
発表するやつで何個くらい間違えていたので悔しかった
けど、家での調べ学習もあり、少しは自分に地震の
知識が身についたと思います。今回の学習も生活に生か
していきたいと思っています。

パネル展示を見て

1月13日 どの写真も震災があった当時の恐怖を死で乗り
(水) こえようと怖ろしく感じる事ができた。私よりも小さな
子供が、お手伝いをしていたり、赤ん坊がはいていたことが印象に残った。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

今までの小学校生活での震災の学習では聞くことのできなかった、
記者として記録を残してきた人のお話をたくさん聞くことができ、とても
勉強になった。毎年、1.17で震災を伝えていくことを私たちのような
震災を知らない世代も引きつぎ、風化せず教訓をいかせるように
私たちも地震などの自然災害のともきちんと勉強していきたいと
思った。東日本大震災や熊本地震など地震の被害はこれから
なくなるわけと自分にできることを探したい。

パネル展示を見て

1月15日 パネル展示を見て、被災者の顔は暗いものが多いが
(金)けれど、配給のごはんを食べているときは明るい顔をしてたの
で、配給のごはんは人々の空腹を満たすとともに安心させることのできるもの
だと感じました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

講演会を終えて、阪神大震災と呼ばれていたけれど
淡路島でも2人がなくなっていることを忘れたために淡路島が
お願いして「阪神・淡路大震災」となったことを初めて知りました。
また、時間かたうと人々は忘れてしまうから神戸新聞のように記録
していくことの大切さを学びました。神戸新聞は、初めは震災の
被害の大きさを伝えていたけれど、人々に希望をあたえ
たいという思いから、希望にあふれた新聞セックリ初めたことを知
る人が人のために行う仕事は理想の働き方だと改めて強く
感じました。阪神・淡路大震災を体験していないけれど、未
来に伝えられる人になりたいです。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

これまで小学校のときから毎年、震災について勉強していたけど、
今回の学習では、阪神・淡路大震災以外のたくさんの災害について
知ることができ、実際の資料をもとに阪神・淡路大震災について
深く知ることができて、良かったです。写真や当時の新聞を見て、その当時の神戸
と今の神戸が同じ場所だと信じられなくらい大きな被害になる地震
の怖さを改めて知りました。また、地震があった日にも新聞を製作する神戸
新聞さんと、情報をたくさん集めることのできる新聞はなくては、大切なものだ
と思いました。今回の防災学習を活かして、近い将来に起こると言われている南海
トラフに備えたいと思います。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

私は新聞をあまり読みません。新聞といえば、難しく、かたく、怖いもののような気がしていたからです。けれど、地震で神戸の明るい姿が見えなくなったとき、神戸新聞がその明るさを取りもどすガキと、たのめを今回初めて知りました。たくさんの人の心に希望をあたえたのは、記者の方たちが市民の心の声を聞き、今の姿を新聞にのせたからだと思います。新聞社は事件や事故に正面から向き合い、読者に伝える仕事だと考えます。自分も被災した一人だから、地震で変わりはした神戸に向き合うのはとてもつらかったと思います。神戸新聞社のみなさんが、必死で作った新聞にのせた思いが、これからも伝え続けられることを願っています。

パネル展示を見て

1月14日 京都新聞さんと協力して作った新聞と、いろんな人が
(木) 助けあいながら生活している写真を見て、どんなときでも、協力し力をあわせていかなきゃいけないということを学びました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

私が一番心に残った言葉は「一つ一つの災害が学ぶ」という言葉です。写真や記事に残すことにより、学ぶことができた。次の災害が起こる前に改善したりできるので、新聞はとても貴重なものだ」とあらためて思いました。また、災害が起きたときに、その情報が流れたり、遅れたり、新聞の情報を見たときにとても安心します。その安心は新聞社の方々が、過酷な中でも情報を集めに行ってくださったりする気持ちがあるからだとあらためて思いました。

パネル展示を見て

1月15日 写真と文章 この2つで震災の大変さを伝えるのは本当に
(金) 難しいものだと思います。リアルな写真と細かく説明された
文による展示は想像をはるかに上回ります。まるで自分が経験したかのように

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

これから南海トラフが起るといわれているなかでこの大震災をばねと
する教訓は大切に伝えていかないといけないと思う。
いつ起るかわからない。もしかして明日起るかもしれない。
そういう意識を持つたい。起ったときは対処したい。
また、コロナ禍での避難所での対策(マスク
防災リュックの見直しなど)といったことも至りしと
おかないといけないと思った。今日の学習をこれから
生かして活かしていきたい。

パネル展示を見て

1月13日 パネルをみたとき、自分が思っていたのと違うかった
(水) りでびっくりしました。地震で火事になったときにすぐ
も入っていて大変だったというのが伝わってきました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

講演会をきいて、自然災害はたくさんあって死者が何人もいる
ということが分かりました。今、コロナウイルスがはやっています。その
ときのひなののしかたなどを教えてくれました。持ち物や場所を散
えてもらってすごく良い話をきかせてもらいました。新聞社の仕事は、
とても大変だということが分かりました。災害がおこったときに、
みんなから怒鳴られてもシャッターを切らないといけないから、つら
いなと思いました。自分も大変なのにみんなのために新聞を作
って新聞社の方は、すごいなと思いました。

パネル展示を見て

1月15日 いろいろな震災を改めて知れ被害の大きさは常識を(金) 超えていた。とくに豪雨などは家も流れてしまうほじりごかた。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

防災学習を通して、やはり震度7はすごいと思います。家が急にたがれ、地面も、われたり、高速道路が根本から折れたり、とんでもない被害だと思ふ。でもそこから復興には、ずい苦労していると心にしました。新聞社の仕事もつらいと思います。例えば大事な人が亡くなって、悲しんでいる所を撮るのは気持ち的にしんどいと思います。それでも、元張って、新聞を作るのは言葉を聞いていて、たいたいと思ひました。いつか南海トラフ地震がくると予想されていて、また、阪神淡路大震災と同じような被害にしないために防災バックを作るなど、自分にできることはないか考える良い機会になりました。

パネル展示を見て

1月15日 何をすればいいかわからない、ただ崩壊していだけ(金) の町でとても残酷に、それでもくるしく貧しくな、た環境でもそれに向き合え、ている人たちに胸を打た。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

講演会を終えて、命の大切さを改めて強く感じた。震災に会った直後は、理由もなくうばわれた命、貧しい生活の暮らしにな、たなと悲しいことがドンドン続いていくのが当たり前にな、た...

けれども、暗い空気のなかで人々は、生まれ変われるのか、このままで終わるのか、この空気から、変わることが私たち人間はできるはずだと思ふ。

なので、一刻も早く、声かけ合、たり、助け合、たり、笑いあ、たりとどんなにくるしくても、死んでしま、た人間の分、明るくすることが、大切だと気付いた。

パネル展示を見て

1月15日 パネルでは、震災当時の写真と復興後の写真が並
(金) べてあったり、ひなん所で生活している人々の写真が、あつて、
震災当時の人々の暮らしや街の様子についてくわしく知ることができました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

今回の講演会では、今までに起きた災害のことや、ひ
なんの方法について学ぶことができました。兵庫県では
阪神・淡路大震災のほかにも、台風や豪雨によって川
がはらんしたり、土砂くずれが起きるなどのたくさ
んの自然災害があつたということが分かりました。新
聞社ではそういった災害の現場へ行き、取材をして記
事にまとめ、新聞を発行するということを知り、人々に災
害の様子を伝えたり記録を残していくためにとつても大
切な仕事だと思ひました。また、災害に備えておくことは
とつても重要なことだと思ひました。

パネル展示を見て

1月15日 体育大会でも使つた王子スタジアムが自衛隊
(金) のヘリコプターの発着場となり、たくさんの物
資が運びこまれていたのだと初めて知つた。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

毎年のように起こる災害を経て、防災や、災害の
発生に関することを学び、それを次へとつなげ
ていくことが必要だと思つた。また、今、災害
が起こると、避難所での感染対策も必要となり、
今までの避難の方法では対応しきれないことも
あると思ふので、大変なことになってしまうと思
つた。新聞社の方に話を聞くことは、あまりなかつ
たので、その方の実体験などを、聞くことがで
きて良かった。

パネル展示を見て

1月15日 パネルの写真を見ても生々しいなと感じました。

(金) その生々しい写真から緊迫感を得ると共に、

その当時被害がとてつさかたという事もなんとなくが伝わってきました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

神戸新聞社さんの話を聞いて、どんなに過酷な時でも新聞というものは、

とてつかせないものなんだという事を知りました。

新聞は、ふだん見る事のなからその日の朝刊をもりて、思った事が

いくつかありました。たしかことではないけど、種類問わず、色々な記事、広告、
番組表などが、ていどいろいろとびくりました。

災害があったとしても、別の所でまた災害がどこか起きたら、

注目がまたおいて、情報を伝えるのにバツキがあることも知りました。

自然災害は、いつくるか分からないし、その時のちよとした行動だけで、

命にかかわるという事も分かって、とても恐ろしいなと思いました。

災害に備えて、非常食など、準備して、いつでもすぐ逃げられるように、

しておくと改めて、思いました。ありがとうございました。

パネル展示を見て

1月15日 展示されているパネルには私の知っているところか

(金) 多くありました。パネルで見ただけでも被害が大きいことは分かったけれど、あの状況から今現在の姿までをどうするのができたのかは、
あらゆる人たちの協力のおかげだと思いました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

講演会で実際に新聞を見させていたたいて震災の被害にあつた人の気持ちに初めてふれることができました。

また、講演会では自然災害についてや避難所について

など様々なことを話したり、教えてくれたりしたので、

今後話してくださったことを忘れずに、これからの生活に

生かしたり、震災や防災についてよく分かっていない人に

この講演会で習ったことを教えてあげたりして、

もっと震災への知識を深めていきたいと改めて

感じました。

パネル展示を見て

1月14日 がらうントにへりせしめるこしを
(木) はじめしりました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

地震 かきたときに大事なことや自分で
もできるとも思わなかったことがみつかり
た気がしました。言葉演会で聞いた
こしを災害がおきた時に生かしたいです。

パネル展示を見て

1月14日 被害状況をくわしく知ることができたし、どう
(木) しの緊迫感や絶ぼう感がとても伝わってきた。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

毎年、阪神・淡路大震災についてや防災学習を受けているけど、自分はまた生まれていないから実際に被害にあつた人から聞いた話をこの授業でより深めることができた。神戸に取材に来た新聞社の人たちは今の状況をいち早く地元の人たちに伝えることを重要として届けていることがわかった。神戸だけでなくこの地震の被害にあつた地域の人たちは家のつくり方や避難リュックの作成など自然災害の防災につとめているから後世にしっかり伝えていき、二度と大きな被害を受けないようにしていきたい。

パネル展示を見て

1月13日 パネル展示で見たことがある写真もあったけど
(金) 見たことのない写真もあって家の一階部分がこわ
れていたりすごく大変だったんだなと思いました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

講演会で自分が知らないことがたくさんあって阪神淡路
大震災の淡路が名前に入っている理由を知らなくて忘れ
させないという理由があって自分の知らないことがあってもっと
くわしく知ってみたいです。

新聞記者の人もいろんな気持ちで写真を撮っているんだな
と思いました。

地震がおきてちょっとしてから新聞がはげましの言葉に変わ
っていて自分が被災しないとはげましの言葉になたりし
ないのははげましの言葉になっていたのはすごいなと
思いました。

パネル展示を見て

1月15日 私はこの地震のことはお母さんからきいていまし
(金) た。みんな生活のことはきいていないので写真を見て
みるとテントがくらくらしていたと考えると寒い大変だと感じ
ました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

今回話をきいて自然災害のすごさがわかりました。
私は小学生のとき警報が来て喜んでいました。
学校が休みになるからです。たけど、屋根にみんな
している人などかいて、死人もくるのに私は喜んで
いたと考えると申し訳ないです。私の行っている
習い事は復興のための募金を募ったり、東北に
行って元気にさせるために東北人会を開いたりしてい
ます。その先生は、この地震を受けとめこのような
こうけんをしているんだなと思いました。

パネル展示を見て

1月15日 より深く震災について知ることができました。私が知っている町がこんな
(金)にも被災していたんだと気づかされました。でも、大きな被害を受けていてもこま
で復興することができたんだと気づきもあり、たくさんの方の助け合いがあったからこそ神戸は復興できた
んだなと思いました!

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

講演会を終えて、被災した人の生活とかも合わせて知ることができました。今は新型
コロナウイルスの感染拡大防止のために避難所での生活が激変していることにおど
ろきました。「分散避難を心がけること」と「非常持ち出し品にはマスク・アルコール消毒液・
体温計が必要」ということが特に印象的だったのでこれからの生活に生かしていきたいです。
やはり、いっどこで地震が起きるか分からないので家族で「もし災害が起こったら」
について話し合っておこうと思います! 新聞社の方々は仕事に命をかけているという
ことが講演会でよく分かりました。仕事はとまかかくだと思うのですが、私達のために
一生懸命情報を伝えてくれているのがすごいと思います。新聞を読む人を第一に考え
ている姿勢、読者によりそう気持ちがある新聞社の方々にとても大切だというのがこの
講演会ですごく伝わりました!

パネル展示を見て

1月15日 パネルで見た神戸は、今の神戸からは想像
(金)もつかないような被害にあっていて、復興に
向けてたくさんの方が協力したことが伝わりました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

震災直後の新聞は、地震に関する、悲しい
情報がたくさんあったけど、何日か後の新聞
には「復興」や「希望」などの明るい言葉が
のせられていたので、人々も勇気づけられた
と思いました。特に、「生きる」という見出しの
特集が、心に残りました。新聞社の人たちは、
神戸が本当に大好きだったから、どんなにつら
くても、新聞を作ることをやめなかつたし、人々
に勇気をあたえられるような新聞を作り続
けることができたんだと思いました。

パネル展示を見て

1月15日 当時の大きな被害を受けた町から、今のきれいな町に変わっていく様子がわかり、町の人の力が合わさって復興していったのはすごいなと思いました。

講演会を終えて（防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう）

今回の防災学習で改めて、阪神・淡路大震災の大きさや、怖さを感じ取ることができました。とても大きな被害を受けて、大切な人を亡くされた方も多かったけれど、「神戸」に対する強い思いが重なって今の「神戸」へと復興させることができたのだと思い、人間の温かみを感じました。過酷な状況の中、新聞社の人々は町の人のために取材に励み、読者の人にとりな状況を知ることや伝えようとしていて、町のつながりを感じました。そして、新聞社の人々はとても大切な存在なのだわかりました。いつ起こるか分からない自然災害から身を守るために、少しでも被害を少なく、小さくするために、今自分にできることを一生懸命取り組みたいと思いました。日頃から、対策をしっかりとりたいと思います。

パネル展示を見て

1月15日 パネル展示を見て、一枚一枚の写真が当時の災害の様子が分かりました。また、それがの様子が分かりました。

講演会を終えて（防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう）

講演会を終えて、阪神・淡路大震災で、26年たった今も人も復興できたのはすごいと改めて思いました。また、この災害で「国」の力が変わったことが分かりました。そして「災害」の一つ、一つが「学」で変わる「災害像」を継続して伝えるのが大切だということを知りました。また、新聞社として、安心安全な情報を届け、みんなが「喜ぶ」記事は大切だと思った。最後に、この講演会を終えてこれからの減災、防災に取り組んでいきたいと思います。

パネル展示を見て

1月15日 実際には震災を体験したことがない私は当時の
(金) 建物が壊され、町が焼け焦げた写真を見て
まるで戦地のようなという当時に過酷さを感じた。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

自然災害というものほとと色々な種類があり、1つの災害が
起きることで違う災害が発生することもありました。
また、実際には災害の被害を見てみないと津波がある可能性、
自宅にいた方が良い場合などから分らず、被害を見ることで
次に備えたり、学んだりすることができるともということも
初めて知りました。そして、最近ではコロナなどの感染症も
多く、避難所での予防対策と自分たちでの予防対策が必要
だと思えた。

パネル展示を見て

1月15日 一回見に行ったことのある所と
(金) 比べてみると神戸はずいぶん早く
復興できたんだなと思いました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

防災学習でいろんな災害のパターンがあって、
それでいろんな災害の特長や対処法を
知れて良かったと思います。
それに神戸新聞の人は少ないのに
毎日多くの人に新聞を発達できているのは本当にすごいと
思うし、今回行ったことがあるがその時も
中を見たときは、ものすごい勢いで「新聞が」
作られていて、見ているだけで気持ちよかったです。
神戸新聞社の方に知らなかった事を教えてもらったのは
良かったです。いつもおかげさまで記事を作ってくれた「ありがとうございます」。

パネル展示を見て

1月15日 パネル写真を見て回りいろんな震災当時
(金) のこわい思いや悲しい思いがつかま
るところをこわいです。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

昨日は講演会があり震災当時の写真や新聞を
見たり感想をもらったりいろんな自然災害のことを
色々教えてくれました。いつどこで災害は起る
が分からないから震災当時の思いがつかまっている
新聞の人だねと思いました。

パネル展示を見て

1月 日

() パネル展示を見て、今ではとても元気な神戸
が、写真のようなことになって、悲しかったです。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

講演会を終えて、気づいたら僕は、新聞社の
仕事に興味を持っていました。新聞社の仕
事はただ、分かりやすい新聞を作るだけ
ではなく、その地域全体の状況に応じて、
いさとなると、1分1秒を争って、新聞を作
ってくれているのだな...と思いました。そんな姿
が、周りの地域の様子を変えていくの
だ...と思いました。今後、ほとんどの確
率で南海トラフが起るといわれていますが、
阪神淡路大震災のような姿が見られることを期待します。
今度は僕も
一緒にがんばります。

パネル展示を見て

1月14日

(金) 南海トラフが近い話に神戸は被害を受ける。その記録を残すために私たちは覚えておかないといけないし写真に残すべきだと思った。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

今まで私たちは被災者としての目線で学習していた。の中で神戸新聞についての話は少しだけ身になっていました。ですが記者の方の話は全く知っていなかったため今回貴重な話を聞くことができて、本当に良かったと思っています。

これからの約2年間であと多くの話を聞いてそれを元に南海トラフの対策を作ろうと思っています。

パネル展示を見て

1月15日

(金) パネルにある写真に赤いテープを貼る男の子を見て感動しました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

いままで知らなかった事が多くてびっくりしました。その中でも死んでしまった人の近くの人には悲しい、それは知っていたけど、それをとる記者さんとかがなしい、そういうことを知った。この講演会をどうして新聞社の仕事のためにやるか、カリカリについて、くわしく知ることができたので、何にかにつなげたい。

パネル展示を見て

1月15日 写真からでも被害の大きさを、恐ろしさも伝わってきた。
(金) でもすぐに復旧工事にとりかかろう。今の姿にならなくて、苦しい中でもがんばらなくていいと思った。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

最初は大震災について、被災者の方の苦しみや、地震の恐ろしさもあまり見ていた。でも新聞社の方の話も聞いて、実際には「生活もままならず」、取材をしている時には、血まみれの死体を見ることもある、と聞き知ったら絶対にたえられないと思った。そんな中でも、必死に取材をして、何とかみんなに新聞を届けたいという気持ちがあることかと感ずいた。だんだんと明るい話題になっていく記事を見て、このような情報があるから希望を持つのではないかと、新聞の力はすごいと思った。

パネル展示を見て

1月15日
(金) パネル展示を見て、当時の、被害がどのほどの物だったのかよく分かった。被災後の神戸は神戸じゃ取れない感じがした。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

講演会を終えて、阪神淡路大震災がどれだけ、おそろしい地震かということもあらためて知ることができた。建物もくずれ人が、生きうめとなり、返事がなければ、救助を、後まわしにされてしまうという現実の厳しさをものあたりにした。そんな中、神戸新聞の記写さん達は、この大震災がどれほどおそろしいかと伝えるために、現場に行き、とてつもない悲しい場面でもシャッターをこらさないといひながら、とてつらく、苦し、投げ出しにくくなるような気持ちにならうと思った。それでも、写真におさめて、記事にするのは、すごいと思った。そんな逆戻りも乗り越えて、過酷な道を通り、新聞を出し、明るい情報、暗い情報と伝えている。記写の人は、大変だ、たんだらうなと思った。

パネル展示を見て

1月15日 今の神戸の状況から考えることのできないような、倒壊した家や被災者のおかれている人など、震災後の写真を見て、震災の怖さにあためて気づくことができました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

講演会で、日本の災害の多さにおどろきました。川が氾濫しておる水害など、神戸に住んでいると経験することがないので、おれ考えられないことでびっくりでした。今、被災地では、コロナウィルス対策として、2m間隔をあけなければいけないということを知ることができました。消火器や、マスク、体温計、被災者のおかれている生活では大切だといっていました。なので日ごろからの準備が大切だと思いました。阪震・淡路大震災の写真を見て、その時のおそろい状況や今の神戸からは考えられないような風景でとてもおどろきました。自然災害はいつおこるか分からないので、それに対して日々備えることが大切だと思いました。

パネル展示を見て

1月15日 自分が今住んでいる町について、思えばいまは、過剰な状況になっておる、改めて自然災害の恐ろしさについて知れました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

被害も無く事はできないが、最小限におさえる事はできる、という言葉で、災害に対する防災と備えがどれだけ重要かが分かりました。実際に震災が起こったときの行動や、コロナ渦においての、避難の仕方など具体的な事を学ぶことが出来てよかったです。この講演会で学んだ事を実際に役立てられるように考えて行動を起こせるようにしていきたいです。

パネル展示を見て

1月5日

(金) 七車桶で食米斗を焼いている写真が
あつたのであのろはカスもないので大変なだなと思いました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

ぼくが講演会で学んだことはコロナウイルス
も含めて災害にはしっかり気をつけるというこ
いつ感染や地震などがおこるか分からないので、予防が
地震がおきてそのようにハザードマップ、必要なものを
確認しておきたいです。

パネル展示を見て

1月5日 パネルの写真で、どんな写真か、どれほどの大きさの被害だった
(金) 分かるような写真を見て、地震の怖さというものが一層分かり
ました。もちろん地震自体、ない方がいいけれど、それは無理なので、これから自然災害に
備えたいと思います。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

これまで小学校のときから毎年、震災について勉強していたけど、
今回の学習では、阪神・淡路大震災以外のたくさんの災害について
知ることができた。実際の資料をもとに阪神・淡路大震災について
深く知ることができて、良かった。写真や当時の新聞を見て、その時の神戸
と今の神戸が同じ場所だと信じられないくらい大きな被害になる地震
の怖さを改めて知りました。また、地震があった日にも新聞を製作する神戸
新聞さんと、情報をたくさん知ることのできる新聞は、すごく大切なものだ
と思いました。今回の防災学習を活かし、近い将来に起こると言われている南海
トラフに備えたいと思います。

パネル展示を見て

1月15日 今の神戸とは、ちがってすこくかわきが
(金) 多くても、たまたま数10秒ほどでこんなにもな
ってしまうのは、おそろしいなと思った

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

今回の防災学習を系冬えて思ったことは、
強くなったことと、辛いことかあてもみ
なでさえあたりしてすこいなと思いました。
それと震災であられたけな事があまたの
とすぐ復興したのもすこいなと思いました。

パネル展示を見て

1月15日 今のこのキレイな神戸からは想像できないくらいひびな状況
(金) でした。「色かなくなつた」というのが本当にそのとありたな
と感じました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

私は新聞をあまり読みません。新聞といえば、難しくみたくるしいもの
のような気がしていたからです。けれど、地震で神戸の明るい姿が
見えなくなったとき、神戸新聞がその明るさを取りもどすガキをたの
を今回初めて知りました。たくさんの方の心に希望をあたえたのは、
記者の方たちが市民の心の声を聞き、今の姿を新聞にのせたから
だと思いました。新聞社は事件や事故に正面から向き合い、読者
に伝える仕事だと考えます。自分も被災した一人だから、地震で変わりは
した神戸に向き合うのはとてもつらかったと思います。神戸新聞社のみな
さんが必死で作った新聞にのせた思いが、これからも伝え続けられる
ことを願っています。